

3. 施主と建築家

関係者へのヒアリングを行ない、《新宿武蔵野館》と《安与ビル》に関して新出事項が明らかになった。

3-1. 新宿武蔵野館

同建築は明石が学生時代に手がけた処女作である。学生であった明石に設計の依頼があった経緯について、これまで文献等では不明瞭であった。紀伊國屋書店の創業者であった田辺茂一(1905-1981)の回想には、武蔵野館の支配人角間啓二と明石が「懇意の間柄」⁵であったという述懐がある。これについて今回ヒアリングにより、明石が学生時代、卒業設計の時期に通っていたという映画ポスターを扱う店の店主が、武蔵野館支配人・角間啓二の兄であったことが明らかとなった。角間は、もともと新宿の商店街に店舗を構えていて、新宿で初めての映画館を作ることを企画した初期メンバーの一人でもあった。明石が設計した《新宿武蔵野館》の前身である、一代目の建物が老朽化し手狭になっていたため建て替えをする時期に、偶然にも学生であった明石へ設計の依頼が舞い込むこととなった。明石は、学生ながら設計に携わることに對し、当時角間氏より『失敗しても独りでやりなさい』とSRCの映画館の依頼を受けた⁶と後に述懐している。

その後、角間らが企画した新宿で初めての映画館・武蔵野館は新宿に映画館ブームをもたらすこととなる。そして最新式の上映機能を備えた二代目はその人気を不動のものにした上に新宿の映画館文化の土台を作り上げ、街の象徴的存在となった。

3-2. 安与ビル

同建物は安与商事株式会社の初代・安田善一が、父である安田与一の業績を新宿に残すために建てられた記念碑的意味を併せ持つ商業ビルである。現在でも新宿駅東口に近接して、その特徴的な形態で広く知られている。また安与ビルは「新宿で大人の道草を」⁷というコンセプトを持って建設され、現在でも茶会や講演会が開かれ、茶器専門のギャラリーが運営されるなど地域に向けた文化発信を続けている。



図6 雑誌の安与ビル特集

安田与一は新宿東口エリアにて料亭や旅館を経営し、伊勢丹を新宿へ進出させた新宿における大企業家であった。安与ビルの施主であった安田善一も父から受け継いだ旅館などを経営し、新宿へ通う多くの文化人たちの社交の場を提供した。

今回ヒアリングによって、安与ビルの設計の依頼は善一の兄弟である安田与佐を通してであることが明らかになった。安田与佐は早稲田大学建築学科、明石信道研究室にも所属した、明石の教え子であった。明石研究室を卒業後、建築家として活動、安与ビルにおいても地下階の設計などに関わっている。

4. 地縁的建築に関する考察

以上のように明石が新宿駅周辺で手がけた4つの作品は、いずれも個人的な、地域的な関係「地縁」によって設計依頼がもたらされたことが判明した。

特に武蔵野館は新宿の映画館、ひいては新宿そのものを代表する建築となり、安与ビルは新宿に通う文化人を集める場所となったと言える。また新宿区役所は新宿区政の中心の場であり耐震工事を経て今後も使い続けられる。

とくに指摘すべき重要な点は、こうした明石の施主は、いずれも新宿文化の担い手としてその発展において非常に重要な働きをしてきたと言える点にある。その結果として、明石がこれらの施主からの依頼を受けて設計に携わった建築作品はいずれも新宿において新しい文化の発信拠点となる作品となる運命をもった。

明石は後年自身の連載『映画館設計ノート(17)』⁸の中で、一つの建築に携わる者同士が互いを信頼し合い情を持って関わることで名建築が生まれると述べていた。これまで述べてきたような施主と建築家の関係が、新宿という場所で生涯にかけて関係し続けたことで新宿文化とともに明石作品が生み出され、現在も影響を与え続ける基盤をつくったといえよう。

5. 結論

明石信道による新宿駅周辺の4つ建築作品について、その設計の依頼過程について分析を行なった。そのなかで明石建築は、新宿文化の礎を築く人物との深い関係が明らかとなった。

6. 謝辞

本研究に際してご協力いただいた相田武文氏、明石乗二氏、阿部幸正氏、安田眞一氏に深く感謝申し上げます。

1 明石信道は1901年函館に生まれ、1928年に早稲田大学理工学部建築学科を卒業する。

2 在学時から設計を進めていた新宿武蔵野館で建築家としての活動を開始する。

3 1937年。建築史家、評論家。

4 長谷川堯「建築家としての明石信道」『明石信道作品集』、1989年、p.3

5 石樽 督和『闇市の形成と土地所有からみる新宿東口駅前街区の戦後復興過程：新宿駅近傍における都市組織の動態をめぐって』、2015年

6 田辺茂一『わが町、新宿』紀伊國屋書店、2014年、p.43

7 明石信道「人生は一回の青春とは限らない」『建築雑誌(我が建築青春期)』、No.1218、1984年、p.3

8 安与ビル竣工パンフレット

9 明石信道「映画館設計ノート(17)」『映写技術リポート』No.42、1953年、p.5

【図版出展】

図1 根本隆一郎 編集『映画の殿堂新宿武蔵野館』東京：開発社、2011.12

図2 「明石信道作品集」刊行委員会『明石信道作品集』新建築社、1989年

図3 早稲田建築ライブラリー 明石信道

図4 「明石信道作品集」刊行委員会『明石信道作品集』新建築社、1989年

図5 筆者作成

図6 『新人物論』1月号、東方新聞社、1986年

* 株式会社 MAKE AND SEE

** 早稲田大学創造理工学研究科建築学専攻助手

*** 早稲田大学創造理工学研究科建築学専攻教授

*MAKE AND SEE Co.Ltd.

**Research Assoc, Faculty of Sciences and Engineering, Waseda Univ.

***Prof, Faculty of Sciences and Engineering, Waseda Univ., Dr. Eng.